



## レトロフューチャー

日向市キャリア教育支援センター長 三樹 和幸



「合計特殊出生率1.2」「消滅可能性都市」「東京一極集中」

マスクミが取り上げるトピックが、次第に追い詰められていく地方の危機感を煽っています。そう言えば、結婚式に呼ばれることはめっきり減りました。ところが、通夜や葬式の連絡を受けることは増えていますから、確実に縮小社会に向かっているのでしょう。

しかし、そう簡単に地方都市が消滅するのでしょうか。昨日も、スーパーでは美味しそうな食べ物並び、楽しい会話が漏れていました。ただ、街を歩くと「従業員募集」「バイト生募集」の広告が目につきます。就職氷河期は今や昔、今は採用氷河期でテレビのCMでも転職サイトが大活躍です。どうやら縮小の流れは、静かに忍び寄っています。

エビデンスを求めるために、県の統計を調べてみました。すると、本県の昭和40年前後の年間出生数は約1.7万人。現在は、0.67万人ですから、1万人強も減っています。しかも、若者の多くは県外に仕事を求めて転出しています。

こんな事実を並べると日向市の未来を憂いてしまいますが、私たち大人の責任は、魅力ある未来を子供たちに引き継ぐことです。負の情報だけでなく、正の情報をしっかり伝え、持続可能な故郷の担い手を育てることを学校だけに任せるわけにはいきません。

言い換えれば、子ども達の未来づくりの責任は学校だけが背負うものではなく、地域全体で担うものだと思うのです。先生たちだけに任せては子供たちの未来づくりはできません。

ただ、私が考えるネイティブ(地元出身)の担い手は、

一つ目が、**地元日向で働き、地域にかかわるストレート型**

次に、**いったん都会を経験し、その知見を活かして地元日向で活躍するUターン型**

最後に、**日向は出ていくけれども日向に特別な愛着をもって他所から日向を支える応援型**

の3つの型を考えています。

そして、これらの3つ型のネイティブに触発された外からの移住者を加えて、多様性に富む担い手が未来の日向市を作ることを夢見ています。

そのために、ネイティブが、地元の魅力を語れる多様な人と出会わなければなりません。地元でしか味わえない体験を重ねることも大切です。幸い、日向には都会が失ったレトロな人とのつながりが残っています。都会では稀有なことかもしれませんが、散歩をすれば「こんにちは」、朝からゴミを出しに行けば「ご苦労様です」。

そこには血の通った地域の温かさがあります。

映画「三丁目の夕日」が多くの感動を呼んだのは、銀幕から滲み出る人と人のつながりが感じられたから。ネットやSNSで簡単に人とつながれる半面、着信拒否やブロックで簡単にその関係を切ることができる現代の寂しさの裏返しなのでしょう。

だからこそ、都会の後追いをするような競争をするのではなく、互いに関われる人間関係を生かした市民総ぐるみのキャリア教育(子供たちの生き抜く力を育む教育)ができると信じています。映画「Back to the Future」では、過去に手を加えて、現状を変えることに成功します。もし30年後の未来から日向の担い手が、現在の日向にやってくるとしたら、残っているレトロな人間関係を生かした人づくりを大切にしないと大変なことになると警告してくれそうな気がするのです。

目指すは、レトロフューチャー

今日も日向市駅から見える日向商工会議所の壁にかかっている「日向の大人はみな子供たちの先生」の看板が私を励ましてくれています。

## 「14歳のよのなか挑戦」

日向市キャリア教育支援センター 遠山 秀樹



初夏の候、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。日頃より日向市キャリア教育支援センターの活動にご理解とご協力を賜り、心より感謝申し上げます。

さて、この度、私儀6月末をもちまして、日向市キャリア教育支援センターを退任させていただくことになりました。令和2年4月からの3年3ヶ月の間、日向市内の小中学校を中心としたキャリア教育の業務に携わることができましたことに深く感謝申し上げます。

在職中は、200名に近い日向市内外の「よのなか先生」、社会体験学習にかかわる「14歳のよのなか挑戦」協力事業所の方々等、多方面の皆様からのご支援とご協力をいただき、無事に務めを果たすことができました。

この二つの組織は、日向市キャリア教育支援センター発足以来10年間にわたり、この事業の礎を築いて来た基盤となっており、他に誇れる仕組みだと思っています。

今後もこの仕組みを生かしながら、子供たちの成長のために当センターを通じて社会体験学習や地域の方々との交流を含めた実践的な学びの場を、更には多様な学習機会を提供することで、日向市の未来を担う「次世代のリーダーづくり」ができるものと考えます。

今後は、私もこれまで学んだことを活かし、微力ながら地域の教育分野にも貢献できればと考えています。日向市キャリア教育支援センターが更なる進化を遂げ、これからも子どもたちの未来を支える存在であり続けることを心より願って、退任のご挨拶とさせていただきます。

最後になりますが、これまでのご厚情に深く感謝申し上げますと共に、今後とも変わらぬご指導ご鞭撻のほどお願い申し上げます。

## お知らせ

LINE公式  
アカウント開設

キャリア教育支援センターからのお知らせやキャリア教育に関する情報をお届けするLINE公式アカウントです。ぜひ「友だち追加」をお願いします。スマートフォンでこちらの二次元コードを読み取ってください。



## 「日向市ならではのキャリア教育を考える」

財光寺南小学校 校長 日高 政志



「キャリア教育」とは何か。「宮崎県キャリア教育ガイドライン」にある「宮崎県のキャリア教育の全体構想図」では、分かりやすく「目指すもの」や「手立て(3点)」が整理されている。

「日向市ならではのキャリア教育」とは何か。手立ての1点目である「学びの枠組み」として地域の「人・もの・こと」を存分に生かすことであり、本市の強みであるキャリア教育支援センターと連携を図りたい。2点目の「縦の接続」として、キャリア・パスポートの活用である。時に、「活動あって学びなし」と聞くと、活動に対するキャリア教育のねらいを児童にも明確にもたせ、事後の自分なりの成長を効果的に振り返らせ学びをつなぎたい。3点目は「横の連携」として、コミュニティ・スクールのよさを活かし、家庭・地域と目的・目標を共有し、協働していきたい。

過去に受講した研修で、「学校は、地域の大人と出会うことも役割の1つ」と伺った。ふるさと日向に誇りをもち、自己実現に向け学び続ける人の育成を目指していきたい。

## 「日向の子どもたちが幸せな人生を歩めるように」

日向市立平岩小中学校 校長 今村 富貴



日向市キャリア教育支援センターには10年間、「よのなか先生」・「よのなか教室」・「14歳のよのなか挑戦」と大変お世話になってきました。その間、多くの児童生徒と一緒に話を聞き、学ぶ中で、「日向の子どもたちのために、働く喜びや苦勞を本気で語ってくださっていること」が何ものにも代え難い価値あるものと感じました。2013年のセンター開所当時、「できるだけ「多様な大人」と「多様な経験」と「多様な考え方」とに接することで、「子どもたちはそのどれかに必ず感じるものがあるはずだ。厳しいが楽しいこともたくさんある」といった話が聞ければ、子どもたちがきっと自信を持つことができる。」と想いを込めてスタートしたと初代センター長からお聞きしました。その想いは10年経った今でも引き継がれ、よのなか先生は200人を越え、多数の協力事業所様にもご指導いただいておりますことに心より感謝申し上げます。一人の教職員として、そして日向の大人として、学校と地域と保護者と一体となって「日向の子どもたちが幸せな人生を歩めるように」、キャリア教育の充実に努めてまいります。

いこともたくさんある」といった話が聞ければ、子どもたちがきっと自信を持つことができる。」と想いを込めてスタートしたと初代センター長からお聞きしました。その想いは10年経った今でも引き継がれ、よのなか先生は200人を越え、多数の協力事業所様にもご指導いただいておりますことに心より感謝申し上げます。一人の教職員として、そして日向の大人として、学校と地域と保護者と一体となって「日向の子どもたちが幸せな人生を歩めるように」、キャリア教育の充実に努めてまいります。

## 「保護者が仕事の魅力を伝える授業実践」

大王谷学園初等部 副校長 甲斐 政憲



本学園初等部では、保護者が講師となり、仕事の苦勞ややりがいを子どもたちに語ったり、体験させたりする「キャリア教育授業」を行っています。多くの保護者の協力を得て、警察官、消防士、建築関係、医療関係、コンピューター関係、リサイクル関係、Jリーグの審判等、毎年10ブース以上できます。子どもたち(全校児童)は、多岐にわたる職種の中から、興味・関心のある職種を選び学びます。初等部の段階では「多くの大人に出会えること」「多くの仕事に触れさせること」を目的としています。学年が上がるにつれて、「自分はどんな職業に向いているのか」「どんな職業に就きたいのか」を考

えながら、夢や目標を見つけることにつながればいいと思っています。多くの職種を知ることで自分の可能性を広げること、自分の特性に気付くこともこの授業実践の目的になります。

本年度で4年目を迎えますが、講師をしていただく保護者の方にはいつも感謝です。

## 財光寺中学校で「よのなか教室」を開催しました。

5月31日(金)、財光寺中学校2年生(125名)を対象に日向市キャリア教育支援センターの三樹センター長が講師として、「働くということ」というテーマで講話をいたしました。

今回の講話が、生徒たちにとって自身の将来を見つめ直す機会となり、9月に同校でおこなわれる職場体験「14歳のよのなか挑戦」がより実のあるものになることを願います。



## 「14歳のよのなか挑戦」協力事業所の会を開催しました

6月6日(木)、日向商工会館において、令和6年度第1回「14歳のよのなか挑戦」協力事業所・教職員研修会を開催し、協力事業所と市内小中学校の教職員22名が参加いたしました。

当センター及び日向市教育委員会より「本年度の社会体験学習の取組み」と「課題解決型社会体験学習で伸ばしたい資質・能力」についての説明と全体協議で参加者との意見交換がおこなわれました。

全体協議では、職場体験学習において、職場、学校それぞれの立場から悩みや課題について意見交換があり、闊達な意見が交わされました。



「14歳のよのなか挑戦協力事業所の会」  
高木会長(株)マルイチ 代表取締役会長

